

スポーツフィールド (TYO: 7080)

2023年12月期第2四半期（2023年4-6月期）は好調継続

サマリー

会社概要

◇**株式会社スポーツフィールド**（以下、同社）はスポーツ人財に就職関連サービスを全国規模で提供している。東証グロース市場に上場。同社の2022年12月期実績は売上高28.7億円、経常利益6.3億円だった。現在の中期経計画によれば、同社は2024年12月期に売上高36.0億円、経常利益7.7億円を目指す。

◇**スポーツ人財に特化、特色ある営業スタイルで市場をリード**：同社の現在の主要事業は新卒のスポーツ人財、特に体育会学生に関わる就職関連サービスである。市場規模は学年あたり全国で5万人程度と推計されるが、同社はスポーツ経験者を中心とした営業社員にアナログなサポートを行う体制を構築、就職希望登録者が年々2万人程度の規模になってきた。スポーツ人財の求人希望する企業の開拓も定着しており、特定した市場でリーディングポジションを確保しつつあるとみられる。

◇**現在の主要事業**：売上高の構成（2022年12月期）は体育会新卒者向けイベント39%（出展企業から出展料を受領）、体育会およびスポーツ経験者に関する新卒人財紹介事業30%（学生に就職カウンセリングを行い、就職先企業を紹介、内定承諾後に採用企業から採用コンサルティング料を受領）、既卒者向け人財紹介事業（既卒スポーツ人財に対する就職カウンセリングを行い、就職先企業を紹介、成果報酬として企業より人財紹介料を受領）からなる。

2023年12月期第2四半期アップデート

◇**第2四半期決算も好調維持**：2023年12月期第2四半期（4-6月期）は前年度から続く業績拡大基調の継続を改めて確認する内容だった。売上高は9.7億円（前年同期比+13%）、営業利益は3.1億円（同+4%）、経常利益3.1億円（同+4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2.0億円（同+3%）となり、第1四半期に比べて成長率が減速したものの、営業基盤の強化と採用市場の改善によって堅調に成長が続いている。会社通期予想と比較しても高い進捗率である。

◇**一旦足踏みの株価**：同社の株価は第1四半期決算発表後一旦調整したものの、6月から7月中旬まで順調に上昇し、7月19日には年初来高値1894円をつけ、その後1750円の水準で推移した。しかし、第2四半期決算の発表後1430円水準まで調整している。この調整は第2四半期の増収率および利益率の低下を反映したとみられるが、2022年5月以降の株価上昇トレンドはおおむね継続している。2023年12月期会社予想PER11.7倍で株価に過熱感には乏しく、来期の成長確度が高まれば株価もこれを織り込んでいくと見る。

◇今後の注目点：

第一に、会社通期予想の上方修正の有無。

第二に、来年度の成長継続の確度。特に、2025年3月卒予定の体育会学生向けスポナビ登録者数、およびスポーツ経験学生向けスポチャレ登録者の積み上がり、同社営業スタッフによる登録者カバー率。

第三に、既卒者向け人財紹介事業、スポーツ関連企業に特化した求人サイトであるスポジョバなど新卒以外の新たな収益基盤の確立。

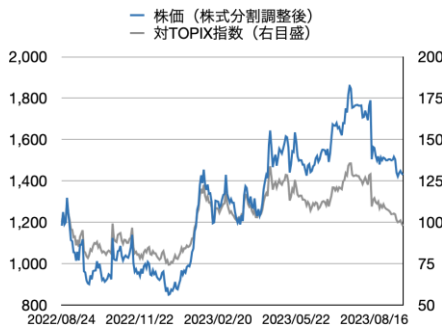
2Q決算アップデート

サービス

2023年9月20日

株価(9/15)	1,430円
52週高値/安値	1,894/821.50円
1日出来高(3ヶ月)	29千株
時価総額	52億円
企業価値	41億円
PER(23/12会社予想)	11.7倍
PBR(23/6実)	4.4倍
予想配当利回り(23/12)	0%
ROE(22/12期)	71.8%
営業利益率(22/12期)	22.2%
ベータ(5年間)	N/A
発行済株式数	3.6百万株
上場市場	東証グロース

株価パフォーマンス



%	1ヶ月	3カ月	12カ月
株価	-8	-7	48
相対株価	-15	-12	18

注目点

体育会学生およびスポーツ経験学生の就職支援事業の深掘り、多角化事業の展開、高い営業利益率と高いROEの維持・向上、株主還元の時期、グロース市場からの上場市場変更、株式流動性の改善とオーナー等保有株式の売却

当レポート(Company note)は、スポーツフィールドの依頼を受けて作成しております。詳しくは、最終ページのディスクレームを参照ください。

目次

サマリー	1
主要財務データ	2
2023年12月期第1四半期決算	3
株価動向	7
今後の注目点	8
業績推移	9
参考情報	11

主要財務データ

決算年月		2017年12月	2018年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月
売上高	千円	1,106,727	1,516,370	1,917,813	1,883,269	2,130,256	2,866,214
経常利益	千円	60,171	113,916	192,045	32,016	△35,298	634,239
当期純利益	千円	41,031	72,809	132,965	17,055	△79,133	412,318
資本金	千円	10,300	10,300	92,680	92,712	92,869	93,079
発行済株式総数	普通株式 A種株式 株	20,000 400	20,400 -	881,600 -	882,560 -	897,400 -	1,808,080 -
純資産額	千円	59,396	132,205	429,932	446,826	368,007	780,524
総資産額	千円	418,961	735,377	1,106,275	1,488,182	1,540,544	2,127,327
1株当たり純資産額*1	円	18.20	40.50	121.92	126.58	102.53	215.87
1株当たり当期純利益*1	円	12.57	22.31	40.68	4.83	△22.21	114.44
自己資本比率	%	14.2	18.0	38.9	30.0	23.9	36.7
自己資本利益率	%	100.6	76.0	47.3	3.9	△19.4	71.8
営業キャッシュフロー	千円	108,208	82,994	198,181	△88,974	53,789	609,537
投資キャッシュフロー	千円	△32,962	△75,085	△24,984	△32,077	△67,943	△7,100
財務キャッシュフロー	千円	△82,366	191,526	149,891	396,399	18,139	△120,077
現金及び現金同等物の期末残高	千円	163,792	363,227	686,315	961,663	965,648	1,448,007
従業員数	名	118	164	201	233	266	242

*1：2019年10月4日付で普通株式1株につき40株、2022年7月1日付、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2017年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算出しております。

出所：同社資料よりOmega Investment 作成



2023年12月期第2四半期決算動向

株式会社スポーツフィールド（以下、同社）は、2023年8月10日引け後、2023年12月期第2四半期（4-6月期）の決算を発表した。好調な第1四半期を引き継ぎ、総じて順調な成長を続けている。通期計画に対する進捗も前年同期比良好で、来期業績のKPIの滑り出しも良好といえる。

再度過去最高を更新した好調な決算

第2四半期累計（1-6月期）の実績は、売上高18.9億円（前年同期比+16%増）、営業利益6.3億円（同+18%増）、経常利益6.3億円（同+18%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4.1億円（同+18%増）となりいずれも過去最高を更新した。営業利益率・経常利益率も過去最高だった。売上高の内訳を見ると、新卒者向け人材紹介を中心に満遍なく成長している。アフターコロナにおける求人需要の回復が、同社の築いた営業基盤に追い風となっている。

第2四半期（4-6月期）に限れば、売上高9.7億円（前年同期比+13%）、営業利益3.1億円（同+4%）、経常利益3.1億円（同+4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益2.0億円（同+3%）だった。第1四半期に比べて売上高成長率は二桁増を維持したものの、利益成長は減速している。これは営業費用の増加によるものだが、人件費・広告宣伝費を増やし今後の事業成長につなげるための意図的増加とされ、現時点でネガティブに捉える必要は乏しいとみられる。

会社通期予想は据え置かれた。第2四半期累計の進捗率は売上高で59%、営業利益で92%など昨年度よりも良い。しかし今期は採用・就職活動の早期化の影響が考えられるうえ、業績が下半期に伸びにくい季節性もある。さらに、先に述べた通り人件費・広告宣伝費の戦略的投下も進んでいることを勘案すれば据え置きは理解できる。事業環境が逆風に変った兆候は今の所ない模様でもあり、会社通期予想が据え置かれたことも特段ネガティブに考える必要はないだろう。

2023年12月期 第2四半期決算概要

(百万円)	第2四半期累計		前年同期比	
	2023年12月期	2022年12月期	増減額	増減率
売上高	1,890	1,636	+253	+15.5%
新卒者向けイベント	846	775	+71	+9.2%
新卒者向け人材紹介	519	370	+148	+40.2%
既卒者向け人材紹介	460	436	+24	+5.6%
その他売上	64	55	+9	+16.5%
営業利益	628	534	+93	+17.5%
営業利益率	33.2%	32.7%		+0.6PP
経常利益	627	533	+94	+17.7%
経常利益率	33.2%	32.6%		+0.6PP
親会社株主帰属当期純利益	407	344	+63	18.4%

- 売上高は、主要3事業すべてにおいて過去最高売上高となった
- 営業利益、経常利益ともに過去最高となり、営業利益率、経常利益率についても前年同期実績を上回り、過去最高を記録

出所：同社IR資料より



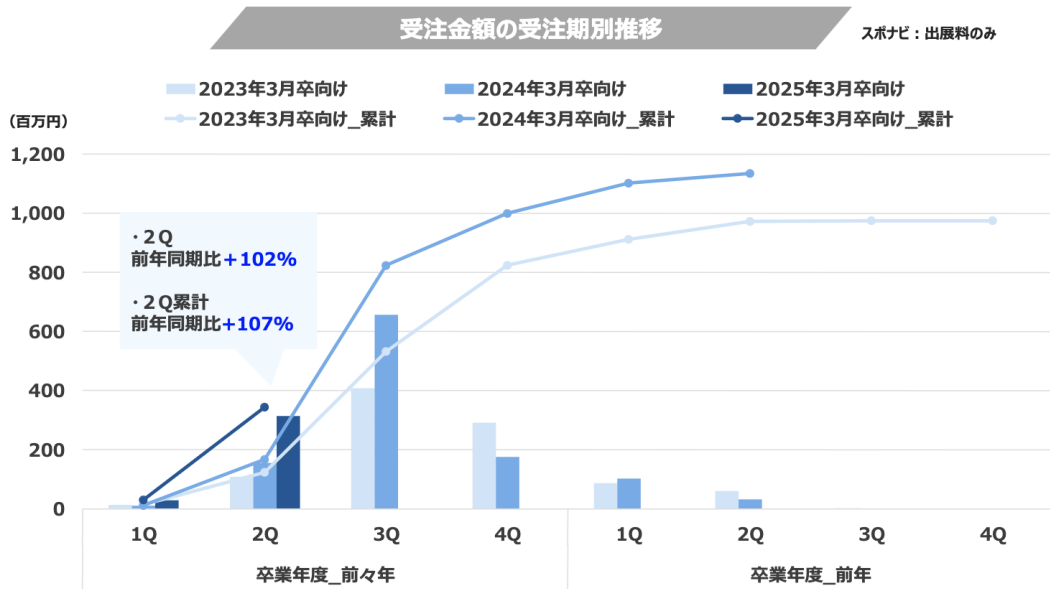
2023年12月期第2四半期決算動向

新卒者向けイベント事業

第2四半期累計売上高は8.5億円（前年同期比+9%）だった。イベント開催数は前年同期比微減だったが、オンラインイベントから来場型・大規模イベントへのシフトが進み、これが販売枠数・売上高を牽引した。

受注はさらに好調である。2025年3月卒向けイベントに対する企業の出展ニーズは強く、受注額の累計は2024年3月卒向けを大きく上回る約2倍強（前年同期比+107%）で推移している模様だ。イベント受注が順調であれば、同社の営業力を人財紹介に前倒しで充当できることから、来期の成長確度が高まる。例年季節的に受注の山場となる第3四半期の仕上がりに大いに注目したい。

(参考) 新卒者向けイベント事業：受注金額の受注期別推移



上記受注は、イベント開催月に売上計上
 2023年3月卒向けイベント：2021年2Q～2022年3Q
 2024年3月卒向けイベント：2022年2Q～2023年3Q
 2025年3月卒向けイベント：2023年2Q～2024年3Q



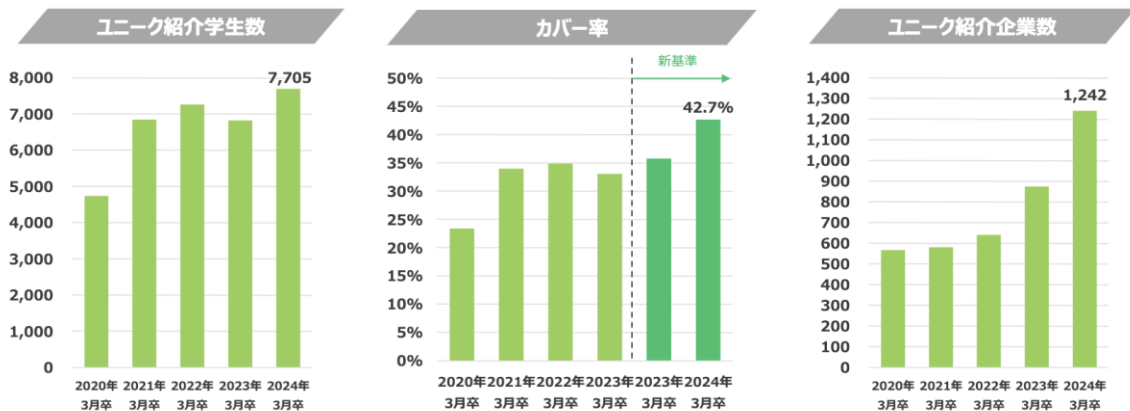
出所：同社IR資料より



2023年12月期第2四半期決算動向

新卒者向け人財紹介事業

第2四半期累計売上高は5.2億円（前年同期比+40%）と大きく成長した。体育会学生の登録者数を示すスポナビ登録者数は、2024年3月卒生が2023年3月卒生を下回ったものの、就職活動の早期化に対応し、同社社員による学生カバー率を引き上げることができたうえ、ユニーク紹介企業数も大幅に増加したため、高い成約率に至り、売上高を牽引した。

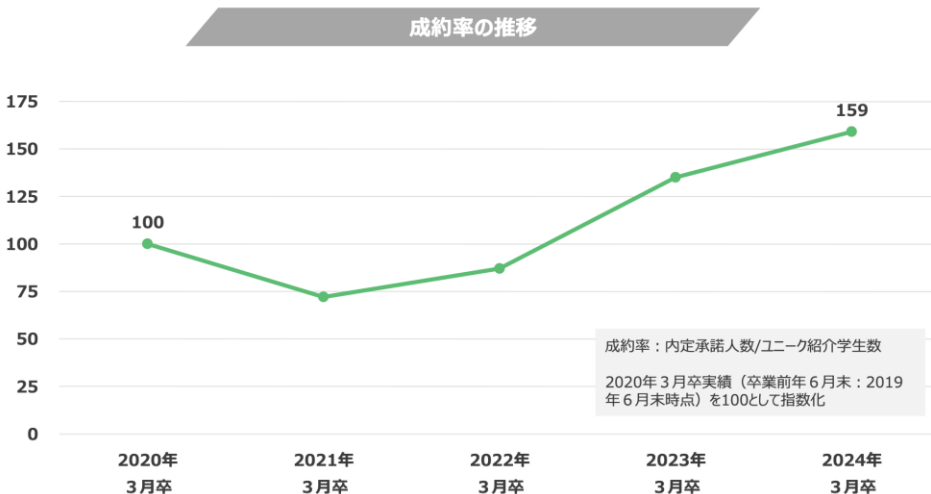


*KPI 第2四半期（卒業前年6月末）時点実績 スポナビのみ（スポチャレは含まない）
 *ユニーク紹介学生数：企業に紹介した重複しない学生数 | ユニーク紹介企業数：学生に紹介した重複しない企業数
 *カバー率：登録者の内、面談対応により、アナログな関係が構築できている登録者の比率（算出方法：ユニーク紹介学生数/スポナビ登録者数）
 *スポナビ登録者数の定義を、スポナビ2024全登録者数から、2023年12月期において企業への紹介対象となる2024年度卒学生のみ登録人数に変更



出所：同社IR資料より

(参考) 新卒者向け人財紹介事業：成約率



*KPI 第2四半期（卒業前年6月末）時点実績 スポナビのみ（スポチャレは含まない）
 *ユニーク紹介学生数：企業に紹介した重複しない学生数



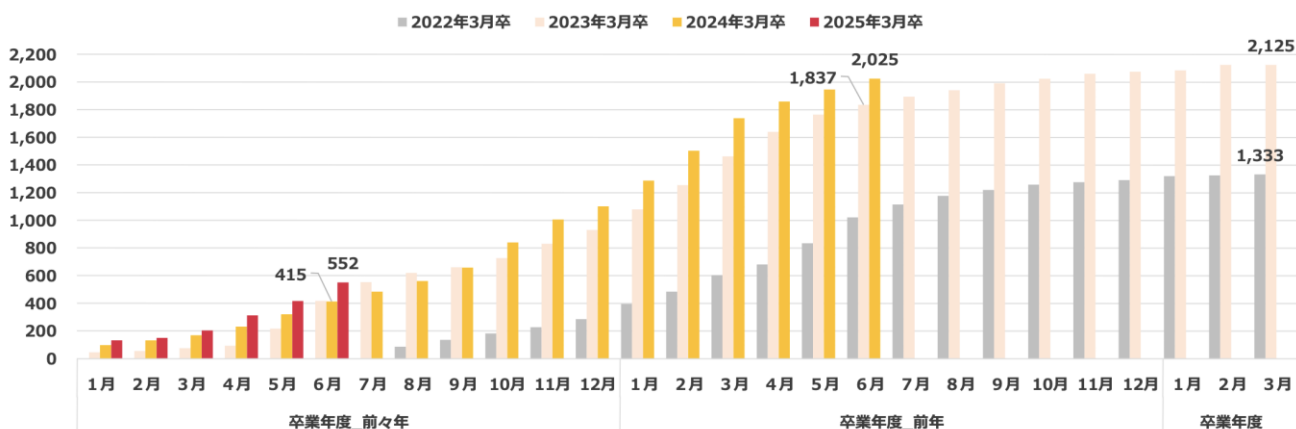
出所：同社IR資料より



2023年12月期第2四半期決算動向

スポナビの成長に加えて、業績貢献が顕在化しはじめたのがスポーツ経験者に対する就職支援サービスであるスポチャレだ。第2四半期累計売上高は0.9億円（前年同期比+62%）となった。登録者数、ユニーク紹介学生数が大幅に伸びており、新卒者向け人財紹介事業の新たな牽引役の座を担いつつある。

スポチャレ累計登録者数推移



出所：同社IR資料より

既卒者向け人財紹介事業

第2四半期累計売上高は4.6億円（前年同期比+6%）と着実に成長し過去最高となった。企業の好調な採用需要を背景に、スポナビキャリア・スポチャレ転職の登録者が前年同期を上回り、ユニーク紹介人財数、ユニーク紹介企業数も総じてしっかり推移している。

なお、新規事業のひとつであるスポジョバ（スポーツ関連企業に特化した求人サイトでオンラインで完結するマッチングが主）の累計登録会員数は増加を続け、サイトPV数は月間1百万PVを以上で安定推移している。

健全なバランスシート

顕著な変化は2022年12月末からみられない。現預金の残高は高水準を維持している。有利子負債は減少しており、ネット・キャッシュ・ポジションを維持している。負債が減少する一方、純資産は内部留保による増加しており、自己資本比率は53.7%まで高まっている。財務安全性の点ではポジティブだが、資本効率の点ではネガティブ要因にもなりうる。従って、今後は内部成長、外部成長、株主還元でどのように資本効率（ROEなど）の維持を進めるのか、従来以上に問われていくだろう。



株価動向

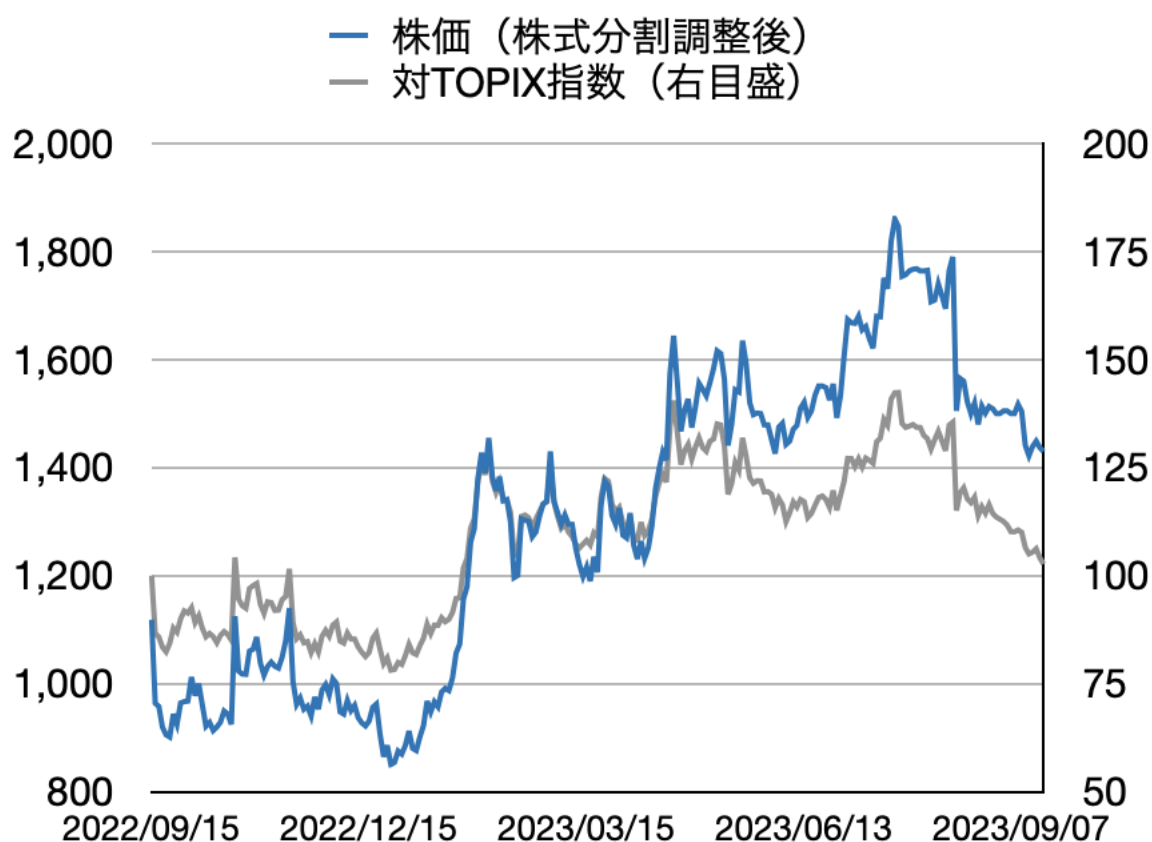
同社の株価は第1四半期決算発表後一旦調整したものの、6月から7月中旬まで順調に上昇し、7月19日には年初来高値1894円をつけ、その後1750円の水準で推移した。

しかし、第2四半期決算の発表後1500円に低下し、足元では1430円台まで調整している。この調整は第2四半期の増収率および利益率の双方が低下したこと、第3、第4四半期は季節性と就職の前倒しの影響から利益面での上積みによくを期待できないことを反映したものと考えられる。

ただし、2022年5月以降の株価上昇トレンドは概ね継続していると見なせる。株価バリュエーションを見ると、2023年12月期会社予想PER11.7倍で株価に過熱感は乏しい。

ゆえに、2024年12月期の成長確度が高まるにつれて株価はこれを織り込んで上昇する可能性が高いと考えられる。

そこで次に、当面の株価の牽引役について注目点を整理したい。





今後の注目点

当面の注目点を3点挙げたい。

第一に、会社通期予想に対する上振れ余地ないし上方修正の有無。

第2四半期累計業績の進捗が会社通期予想に対して高く、採用市場の環境は追い風にあると見られるため、通期業績が会社通期予想を上振れる可能性が考えられる。

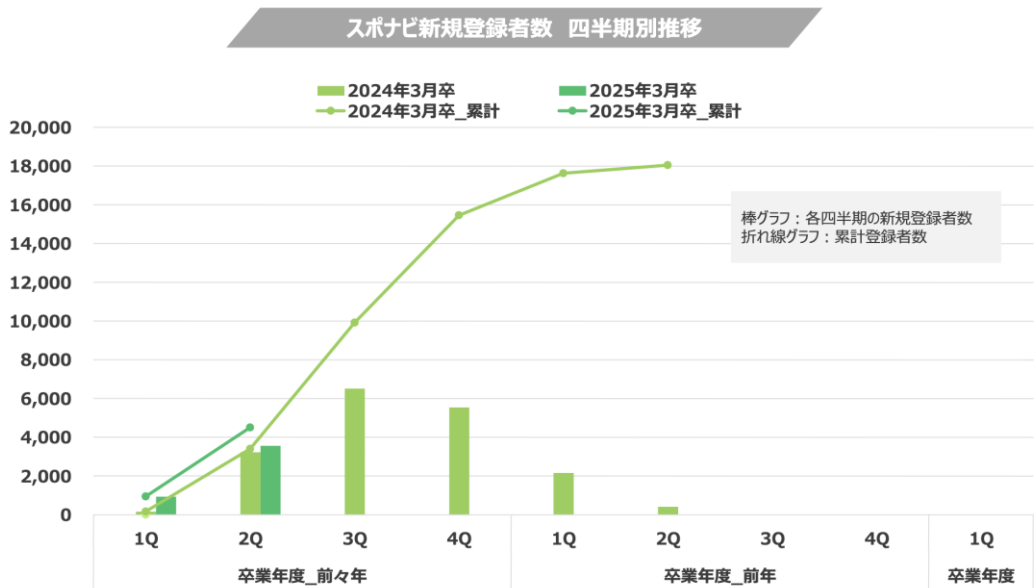
ただし、同社の業績が下半期に伸びにくい季節性、中期的な持続的成長に向けて人件費・広告宣伝費などの先行投資の可能性、今期は新卒の就職が前倒しになっている可能性など、下半期の利益面での上乘せを阻む要因も多いことも指摘しておきたい。

第二に、来年度の成長継続の確度。特に、2025年3月卒向けイベント受注の仕上がり、2025年3月卒業予定の体育会学生向けスポナビ登録者数、スポーツ経験学生向けスポチャレ登録者の積み上がり、同社営業スタッフによる登録者カバー率。

これらのKPIが来る第3四半期、第4四半期に積み上がると、2024年12月期の業績成長の確度が高まる。現在の株価のバリュエーションに過熱感がないため、株価はその場合、2024年12月期業績を織り込み動き出すと考える。現時点ではこれが最も重要な株価ドライバーとみられる。

いうまでもなく、仮に採用市場が冷え込み始めると逆の展開になりうることは指摘しなければならない。

(参考) スポナビ新規登録者数 四半期推移



出所：同社IR資料より

第三に、既卒者向け人財紹介事業、スポーツ関連企業に特化した求人サイトであるスポジョバなど新卒以外の新たな業績牽引役が立ち上がるか。同社の中期的な事業ポテンシャルを引き上げる可能性が高く、その際には株価を牽引すると予想される。

業績推移

通期業績推移

(百万円)

決算期	2019/12期	2020/12期	2021/12期	2022/12期	2023/12期	2024/12期
連結・日本基準	(上場)				会社予想	中期経営計画 (修正後)
【損益計算書】						
売上高	1,918	1,883	2,130	2,866	3,186	3,600
営業利益	194	16	-32	637	680	768
経常利益	192	32	-35	634	677	767
税金等調整前当期純利益	192	32	-81	634		
親会社株主に帰属する純利益	133	17	-79	412	440	
【貸借対照表】						
資産合計	1,106	1,488	1,541	2,127		
負債合計	676	1,041	1,173	1,347		
純資産合計	430	447	368	781		
借入金合計	334	731	749	630		
【キャッシュ・フロー計算書】						
営業活動によるキャッシュ・フロー	198	-89	54	610		
投資活動によるキャッシュ・フロー	-25	-32	-68	-7		
財務活動によるキャッシュ・フロー	150	396	18	-120		
フリーキャッシュフロー	173	-121	-14	602		
現金及び現金同等物の期末残高	686	962	966	1,448		
【経営効率】						
売上高経常利益率	10.0%	1.7%	-1.7%	22.1%	21.2%	21.3%
ROA	14.4%	1.3%	-5.2%	22.5%		
ROE	47.3%	3.9%	-19.4%	71.8%		
【一株指標】 単位：円						
EPS (株式分割等調整後)	41	5	-22	114	122	
BPS (株式分割等調整後)	122	127	103	216		
DPS (株式分割等調整後)	0	0	0	0	0	
【従業員数】						
連結従業員数	201	233	266	242		

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成

一株あたり指標であるEPS、BPSは2023年3月に実施された1：2の株式分割の効果を遡及して計算。

業績推移

四半期業績推移

(百万円)

	2022Q1	2022Q2	2022Q3	2022Q4	2023Q1	2023Q2
売上高	774	862	609	619	919	971
新卒者向けイベント売上高	507	267	61	292	578	267
新卒者向け人財紹介売上高	79	290	354	119	92	426
既卒者向け人財紹介売上高	158	277	164	176	213	247
その他	28	26	29	31	34	30
営業利益	232	301	69	32	315	312
経常利益	231	301	68	31	314	312
親会社株主に帰属する純利益	148	196	45	23	205	202

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成



会社概要

社名	株式会社スポーツフィールド			
代表者	代表取締役 篠崎 克志			
設立年月日	2010年1月			
本社所在地	東京都新宿区市谷本村町3-29FORECAST市ヶ谷4F			
資本金	93,079千円 (2022年12月末現在)			
役員構成	代表取締役	篠崎克志	取締役(社外)	小林明彦
	取締役副社長	伊地知和義	取締役(社外)	河村直人
	専務取締役	加地正	常勤監査役(社外)	大隅靖朗
	専務取締役	森本翔太	監査役(社外)	山本憲司
			監査役(社外)	田島潤一郎
事業内容	新卒事業部門：イベント事業、人財紹介事業 中途事業部門：人財紹介事業			
売上規模	2,866,214 (千円) (2022年12月期)			
従業員数	242名 (連結：2022年12月末現在)			
拠点	東京本社、札幌オフィス、仙台オフィス、千葉オフィス、横浜オフィス、東海オフィス、京都オフィス、大阪オフィス、神戸オフィス、岡山オフィス、広島オフィス、九州オフィスの12拠点 + 7サテライトオフィス			
総資産	2,127,327 (千円) (2022年12月末)			



主要株主の状況

氏名又は名称	所有株式数	発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合
		(%)
篠崎 克志	409,000	22.62
伊地知 和義	209,600	11.59
加地 正	209,600	11.59
森本 翔太	209,600	11.59
楽天証券株式会社	27,400	1.51
スポーツフィールド従業員持株会	25,200	1.39
野村證券株式会社	19,700	1.08
重森 豊太郎	16,800	0.92
NOMURA PB NOMIN EES（常任代理人：野村證券株式会社）	16,200	0.89
医療法人ヒポクラテス竹村内科腎クリニック	16,000	0.88
竹村 克己	16,000	0.88
計	1,175,100	64.99

株主構成

2022年12月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							計	単元未満株式の状況（株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	2	22	14	12	2	971	1,023	—
所有株式数（単元）	—	118	1,313	253	535	2	15,840	18,061	1,980
所有株式数の割合（%）	—	0.65	7.26	1.40	2.96	0.01	87.70	100.00	—

（注）自己株式196株は、「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に96株含まれております。



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの Recherche によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。